

表2. PRISMA 2020 抄録チェックリスト\*

章と大項目	項目#	チェックリスト項目
<b>タイトル</b>		
タイトル	1	システマティック・レビューであることを明示する。
<b>背景</b>		
目的	2	レビューの目的またはリサーチ・クエスションの明確な説明をする。
<b>方法</b>		
適格基準	3	レビューの組み入れと除外基準を記載する。
情報源	4	研究を特定するために用いた情報源（例：データベース、試験登録）とそれらで最後に検索した日を記載する。
バイアスリスク	5	採用した研究におけるバイアスリスクを評価するために用いた方法を記載する。
結果の統合	6	結果の表示と統合で用いた方法を記載する。
<b>結果</b>		
採用した研究	7	採用した研究と参加者の合計数を示し、研究の関係する特性を要約する。
結果の統合	8	それぞれについて、できれば採用した研究数と参加者数を含めて、主要なアウトカムの結果を示す。メタアナリシスが行われた場合は、要約推定量と信頼区間を報告する。グループを比較する場合は、効果の方向（つまり、どちらのグループが望ましい方向か）を示す。
<b>考察</b>		
エビデンスの限界	9	レビューに存在するエビデンスの限界（例：バイアスリスク、非一貫性、不精確）に関する簡潔な要約を記載する。
解釈	10	結果の普遍的な解釈と重要な意味合いを記載する。
<b>その他</b>		
資金	11	レビューの主要な資金源を記載する。
登録	12	登録の名称と登録番号を記載する。

\*この抄録チェックリストは、2013年に発表された「PRISMA for Abstracts」<sup>54)</sup>に含まれているものと同じ項目であるが、PRISMA 2020と一致するように改訂され、著者が結果の表示と統合で使用した方法を記載することを推奨する新たな項目が含まれている（項目#6）。

**【転載元】**

上岡洋晴,金子善博,津谷喜一郎,中山健夫,折笠秀樹. 「PRISMA 2020声明：システマティック・レビュー報告のための更新版ガイドライン」の解説と日本語訳. 薬理と治療 2021;49:831-42.